

2014.01.21

「安倍内閣 2年目の課題」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は1月21日火曜日です。

今週の24日から第186国会が、150日間の会期が始まります。今回、安倍内閣の2期目のスタートとなる国会であります。今回の国会も、経済政策、安全保障、エネルギー政策等の様々な問題で、大きな課題を抱えております。

先の名護市の市長選挙で、我々自民党が支援した候補者が、残念ながら負けてしまい、今日の役員連絡会でも話題となりました。基地問題は基本的に、知事の権限と国の権限でありますので、市長には権限がありませんが、マスコミが、地元の民意を無視するのか。」という形で批判しています。勿論、民意を無視する訳にはいきません。ただ問題は、民意と言いますが、基地やゴミの焼却場や火葬場等は絶対に必要な物ですが、そういった施設を「迷惑施設」として、民意は歓迎しません。また、喜んで賛成する方はいないものです。基地のそうした迷惑施設とは少々違うものです。何れに致しましても、地域の民意ということだけでは、政治ができないことは当たり前の話であります。様々な問題を考えたとき、日本を守るために必要なものは必要である、という当たり前のことを報じることが、マスコミや知識人であると思います。しかし、今のマスコミは、そういう気も能力も、全く無いということであり、困ったものです。私が申し上げたいことは、マスコミは無い夢を見させてしまいました。つまり、

民意で反対と言ったら、基地は無くなるとか、原子力発電所につきましても、東日本大震災での事故を見てしまうと「怖い。」とか、その感情的な面だけでは問題は解決できません。実際に脱原発するに致しましても、10年、20年は絶対にかかります。今すぐに、原子力発電所を稼働させずに止めて、脱原発はできません。そのための技術やお金をどこから持ってくるのか、と言った時に、当然、電気料金や税金での負担になります。また、原子力発電所を止め、そのお金が燃料代で毎年3.5兆円も海外に消えてしまえば、脱原発が益々行えなくなってしまいます。ですから、現実的に考えますと、そんな簡単に原子力発電所を止めて、脱原発とはなりません。細川・小泉氏が言っているようなことは絶対に無理ですが、あたかもできるかのようなことをマスコミは言っています。

また、名護市の問題も、元々は普天間基地の移設を考えた時に、日本全国の色々な地域を考えてみても、同じ沖縄の名護市しかありませんでした。そこで、日米の合意ができ、基地の移転の話できたにも関わらず、できれば県外、海外という話を平気で民主党政権が言い、そこまで政府が言うのであれば、沖縄県の知事も「もう基地はいりませんよ。」というのは当然です。そして、沖縄県民も「県外に持って行ってくれ。」となりましたが、結局、鳩山元総理に腹案がなく、辺野古しかありませんでした。要するに、ない夢を見させて、原子力行政や安全保障においても、とんでもないことをしてきました。

また、経済政策に関しても、ない夢を見させました。「無駄を削減すれば、

日本の経済が良くなり、財政再建もでき、経済もよくなる。」と書いていたが、これも全くのデタラメでした。そもそも無駄という定義がされないまま、予算の執行を小さくしてしまうことで、デフレが加速し税収が減ってしまい、世の中に回るお金の量が減ってしまいました。減税しても、その分民間に渡したお金が国内で使われず、貯蓄超過のまま、また、海外の投資に使われることにより、政府の予算が小さくなるのと相まって、国内で使うお金が少なくなり、仕事が減ってしまいます。これがデフレを作った1番の原因です。これはすべて、民主党政権のない夢を見させたことの象徴です。今年の安倍内閣がやらなければならないことは、ない夢を見させられた国民にもう一度、現実をしっかりと説明することです。去年はアベノミクスの期待から株価が上がりましたが、本当のアベノミクスの正念場は今年です。エネルギー政策や安全保障政策も含め、これまで、ない夢を見せてきて、国民に幻想を振りまいていくマスコミや民主党という人達がありました。また、自民党の一部の議員にもそういった考えの方がいました。しかし、現実はそのではなく、ない夢を与えた政策の方向性は、ますます日本をおかしな方向に導いた、という事実を我々は国民に、伝えなければならないと思います。

次の国会の中で、私も予算委員会等の質問の機会がありましたら、そういった過去や、自民党政権下でのデタラメ政策のような、同じ轍を踏まないように、2期目の安倍政権では、そこをしっかりと直した上で、経済や財政を建て直

し、外交や安全保障を確立させ、エネルギーの安定供給をしっかりと行っていくことを訴えていきたいと思います。是非、皆様方にもご期待頂きたいと思います。そして、私も国会の立場から、安倍総理を支えていきたいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。